

埼玉医科大学

国際医療センターニュース

救命救急センター

患者中心主義



心臓病センター

包括的がんセンター

平成19年4月開院

基本理念 : 患者中心主義のもと安心して安全な満足度の高い医療の提供をし、かつ最も高度の医療水準を維持する。

使命 : 当センターは、埼玉県全域を範囲とし、がん、心臓病に対する高度専門特殊医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供する。



埼玉医科大学は、4つのキャンパス（毛呂山キャンパス、川角キャンパス、川越キャンパス、日高キャンパス）からなり、その4番目のキャンパスとして日高キャンパスは埼玉県日高市にオープンしました。埼玉医科大学保健医療学部（教育部門）、埼玉医科大学ゲノム医学研究センター（研究部門）、埼玉医科大学国際医療センター（診療部門）から構成されています。

その構想は、「埼玉医科大学 夢21プロジェクト」から萌芽し、ゲノム医学研究センターの2001年6月の開所からスタートし、その後、2006年4月に新設学部の保健医療学部校舎が竣工し教育を開始しました。また、2007年4月の埼玉医科大学国際医療センターの開院で開花する一大プロジェクトです。

ゲノム医学研究センターは、遺伝子研究を遺伝子の構造と機能の基礎研究から病態生理並びに遺伝子治療、再生医療まで含む基幹研究部門とプロジェクト研究チームとの共同により行います。臨床と直結した共同研究、また企業との共同研究の場として研究施設を提供します。

このことにより本学の医学研究を活性化させ水準を挙げ国際化を推し進めることを意図しています。

保健医療学部は、21世紀の新しい医療を実践する患者さん中心の安心できる医療技術者を養成するために開設しました。看護師・保健師を養成する看護学科、臨床検査技師・食品衛生管理者など多様な資格が取得できる健康医療科学科、臨床工学技士を養成する医用生体工学科の3つの学科で構成されています。

国際医療センターは、その名に相応しい質的に極めて高いレベルの医療を提供し、「世界と対話し、世界をリードする埼玉医科大学」を目指し、基本的なコンセプトはグローバルスタンダードです。心臓病センター、包括的がんセンター、救命救急センターからなり600床の病床を持ち、高度先進医療を提供します。各センターは機能的には、卓越した専門特殊医療施設（Center of Excellence (COE)）です。

これらの3施設は独立した施設ではなく、有機的に連携し日高キャンパスを構成し、また、各キャンパスも同様に連携し埼玉医科大学を構成しています。埼玉医科大学は、各施設、各キャンパスの有機的連携と結合により教育・研究・診療を実践しています。

あいさつ 国際医療センター開設準備委員長 尾本良三



日高キャンパスの埼玉医科大学国際医療センターは、第4次埼玉県地域医療計画に基づき開設が許可された病院で、いよいよ平成19年4月に開院を迎えることになりました。

本センターの病床数は、包括的がんセンター300床、心臓病センター200床、救命救急センター100床の計600床ですが、そのうち200床は毛呂山キャンパスの大学病院からの移動です。国際医療センターの最も大きな特徴は、埼玉県全県を範囲とし、がん、心臓病に対する高度専門医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供することをその使命としていることです。実際の診療においては、徹底的な患者さん中心主義です。患者さんひとり一人にとって最も適切なオーダーメイドともいべき医療の提供を目指しております。そのために具体的には、従来のような各診療科の枠をこえて個々の患者さんをケアいたします。“内科”や“外科”という垣根は全く存在せず、複数の診療科によ

る併診が当たり前に行われ、安心して安全な医療をシステムを確立しております。これらのことを実現するために、例えば包括的がんセンターでは、センター内センターとして“消化器病センター”、“呼吸器病センター”というようにセンター方式の診療体制をとっております。心臓病センターや救命救急センターでも同様にいろいろなサブセンターで患者さんのために活躍いたします。本センターの特徴を示すものとして病室の構成があります。全600床のうち108床がICU系の病室で、骨髄移植などに対応する無菌病室も36床用意されております。本センターと大学病院とはわずか2.5 kmしか離れておりません。両院を結ぶバスがピストン運行いたします。本センター開院後は、当然のこととして両病院は相補的に緊密に連携してまいります。国際医療センターが高度専門医療に特化するという本来の使命を果たすためには、第一線で地域医療を実践しておられる多数の先生方との医療連携が絶対に必要です。今後は地域医療連携のために緊密なネットワークを組んで、地域の先生方と一緒に患者さんに継続的に最良の医療を提供するために最大限の努力をいたします。

各センターの特徴

包括的がんセンター

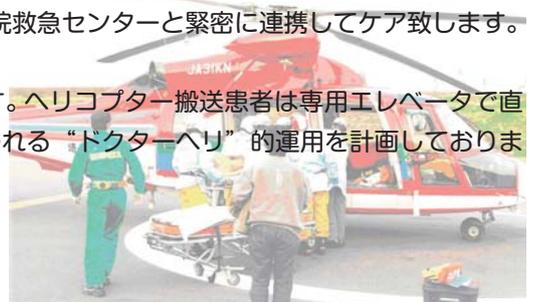
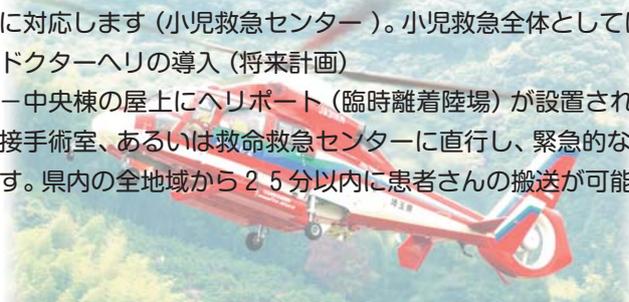
- ・ 「がん」のみでなく、近縁疾患も取り扱います。
- ・ 「良性から悪性まで」広くがんに関連する領域を扱います。
- ・ 内科、外科の区別なく、患者さんひとり一人にとって最適の高度専門医療を提供致します。
- ・ 患者さんの治療方針の決定やその変更は、カンサーボードという委員会でエキスパートの合議によって行われ、決して独断で行われることはありません。
- ・ センター内センターとして、消化器病センター、呼吸器病センター、内視鏡検査治療センター、通院治療センターなどがあります。
- ・ 地域がん診療連携拠点病院の機能を、開院と同時に大学病院から本センターに移す計画です。
 - －相談支援センターを設置し、患者さん・ご家族、かかりつけ医の先生方を支援します。
 - －精神腫瘍科、緩和医療科、認定看護師等による緩和医療チームを中心とする緩和医療を行います。

心臓病センター

- ・ 心臓内科、不整脈科、心臓血管外科、小児心臓外科、小児心臓科などの部門から構成されています。
- ・ 新生児の先天性心疾患から成人心臓病、高齢者心臓病までを広く扱い、いかなる重症例であっても対応します。
- ・ 難治性心不全治療のために、いつでも補助人工心臓治療が実施可能です。心臓移植をすでに2例実施しております（難治性心不全治療センター）。
- ・ 特殊専門医療として、両心室ペースメーカー、植え込み式除細動器治療、大動脈内ステントグラフト、心房中隔欠損カテーテル閉鎖などがあります。
- ・ 埼玉医科大学病院ですでに150例以上実施している腎臓移植のほかに、平成19年度から生体肝臓移植の実施を計画しています（臓器移植センター）。
- ・ 人工臓器（人工心臓、補助人工心臓を含む）及び臓器移植等の研究や臨床応用の研究センターを目指します（人工臓器・移植センター）。

救命救急センター

- ・ 第3次救命救急センターの指定を受ける計画です。
 - －2次救急患者の受け入れも行います。
- ・ 発症直後の脳血管疾患に対して、適応によっては脳血管内手術や開頭手術等を直ちに複数例で同時に実施可能な体制です（脳卒中センター）。
- ・ 新生児期や若年小児期で重症化する先天性心疾患、あるいは小児外科領域の重症例など主として3次の小児救急患者に対応します（小児救急センター）。小児救急全体としては、大学病院救急センターと緊密に連携してケア致します。
- ・ ドクターヘリの導入（将来計画）
 - －中央棟の屋上にヘリポート（臨時離着陸場）が設置されております。ヘリコプター搬送患者は専用エレベーターで直接手術室、あるいは救命救急センターに直行し、緊急的な対応が行われる“ドクターヘリ”的運用を計画しております。県内の全地域から25分以内に患者さんの搬送が可能です。



地域医療連携ネットワーク

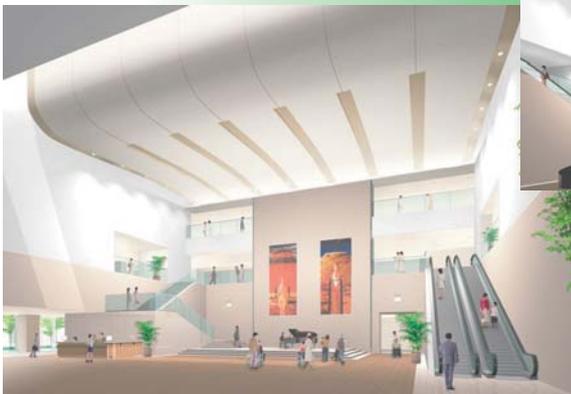
“地域医療連携ネットワークにおける地域連携クリティカル・パス”の実現に向け、連携施設との緊密なネットワークを構築します。



外観：エントランス正面



テレサホール：レストラン、
カフェテリア



エントランスホール



エントランスホール
見返し



メディカモール：売店、理・美容院等



ナイチンゲール

ヒポクラテス

限りなき愛

良質で安全な医療・看護の提供を第一と考え、
日々努力をしています

私たちは、患者さんに満足度の高い医療と
看護を実践します

埼玉医科大学国際医療センターニュース
October 2006 プレ創刊1号【院内配布用】

発行 埼玉医科大学国際医療センター開設準備室
発行責任者 尾本 良三
発行日 平成18年10月18日
印刷 ヨーコー印刷株式会社

※本紙記載の写真・記事の無断転載および、複写を禁じます。